

# Re ISHINOMAKI -コンパクトシティモデルによる石巻市の復興-

## CONCEPT

3.11の大地震によって歴史的被害を受けた東日本では、地震動による被害のみでなく、多くの海岸沿いの集落や都市が未曾有の大津波によりまちの機能が失われた。特に多様な産業や人口が集積していた市街地は甚大な被害を受けたが、中でも東北第二の近代都市である石巻市は、不幸にもそのような被災都市の典型の1つとなった。 *fig 1*



fig 1

石巻では幾度にも渡る基幹産業の変移から、市街地では主に商業、海沿いでは主に漁業・工業が成り立ち、ひとびとの生活は各々のコミュニティの内部や他都市とのつながりによって保たれていた。しかし、今回の震災によって、一瞬にして、街全体が経済の循環機能を失い、さらに海沿いの人々は住まいまでも失ったのであった。 *fig 3*



fig 2

現在の石巻は、予期せぬネガティブな理由で収束せざるを得ない状況に陥っており、今後住まいを失った多くの人々がこの街で暮らしていくためには、今まで市街地・海沿いで別々の生活を営んでいた人々が共存して生活していくことが必要不可欠である。しかし、その共存復興というビジョンの前に、震災前の産業の散在に起因するコミュニティの分立という問題が存在することが今回の調査で明らかになった。



fig 3

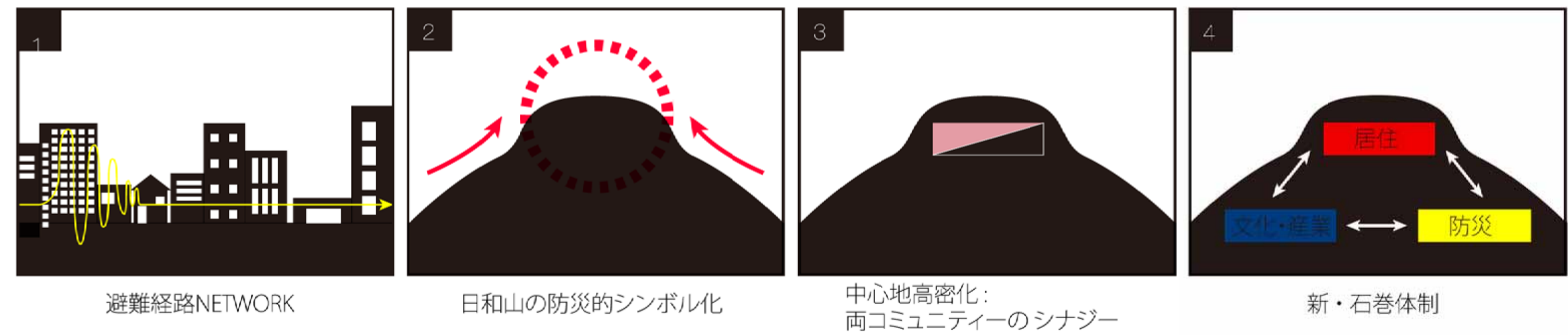
本計画では、市街地と産業地の問題点を相互補完させ、かつ今回の震災を超える災害が再び襲った時にも耐えられる防災システムを保持し得るコンパクト化した「新しい石巻の中心市街地」を提案する。 *DIAGRAM 2*

この提案で目指すものは、震災によって変化せざるを得ない生活の中で、古くから存在する既存コミュニティを維持しつつ、異なる既存コミュニティ同士が密接に補完しあう事が出来る、「新たなコミュニティを再構築していく方向性とその生活のイメージ」である。いずれの日か、都市整備が完了し街が再び日常を取り戻すころには、さらなる成熟を実現する新体制がこの地でスタートすることが期待される。 *DIAGRAM 1*

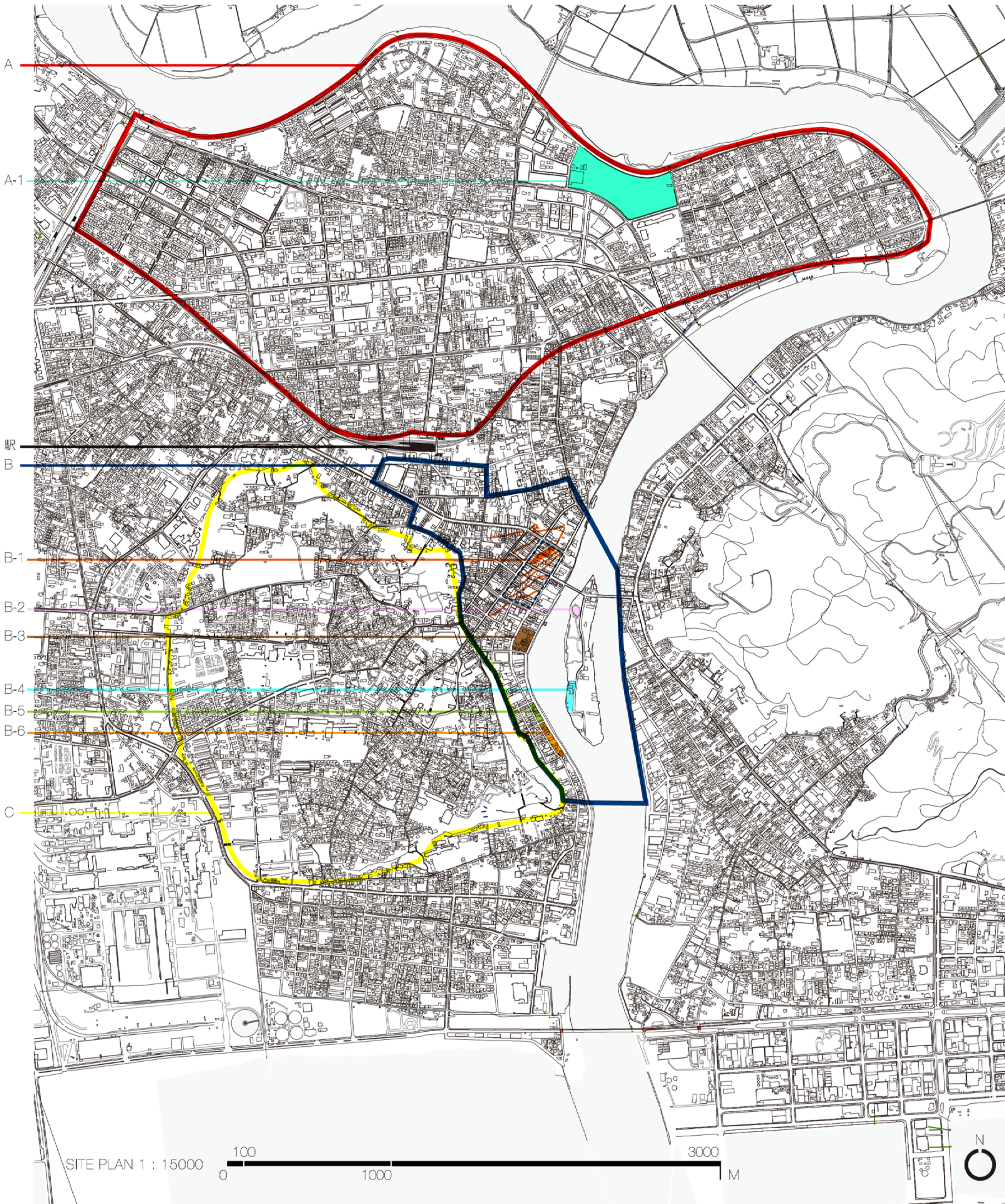
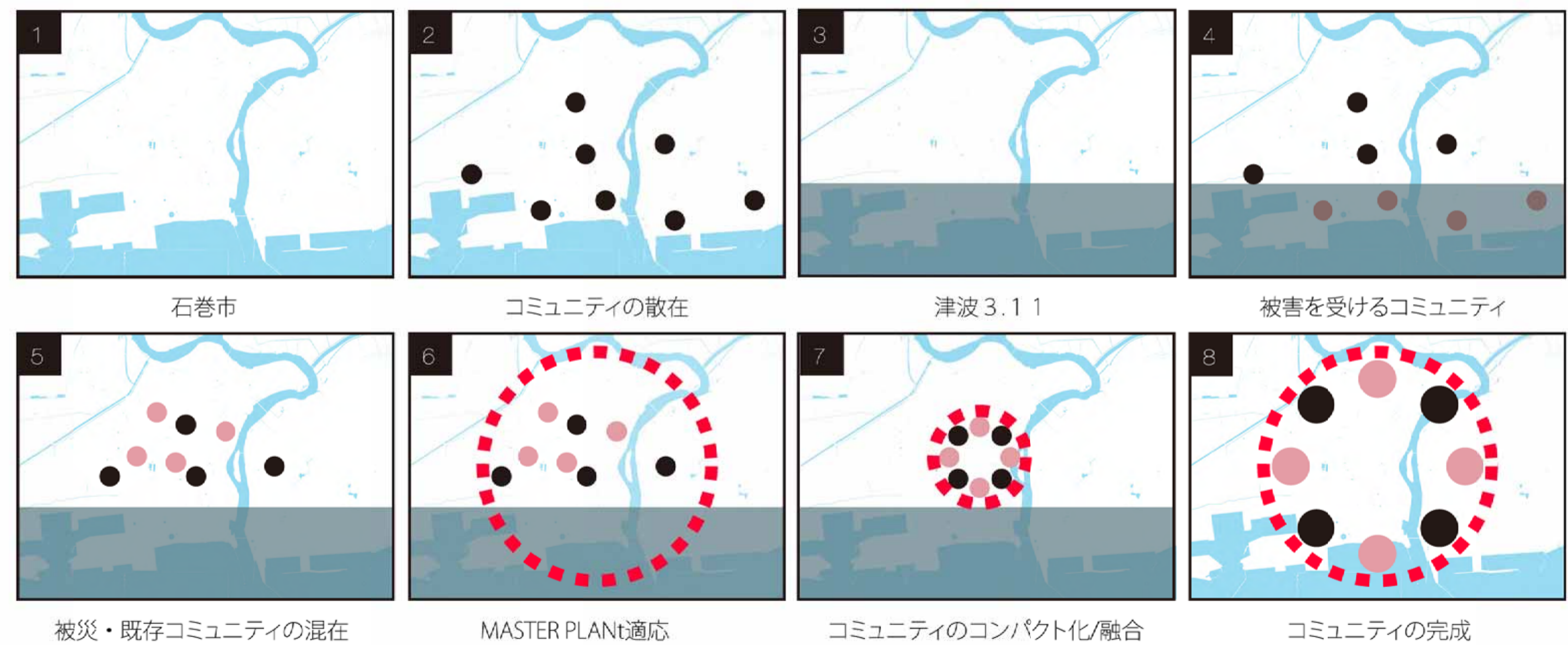


fig 4

## DIAGRAM 1 : MASTER PLAN



## DIAGRAM 2 : COMMUNITY TRANSITION



A	市街地	A-1	川開き祭り	B	生活産業拠点	B-1	新商店街	B-2	石ノ森美術館	B-3	造船場	B-4	船着き場	B-5	物産エリア	B-6	歴史資料館	C	日和山
---	-----	-----	-------	---	--------	-----	------	-----	--------	-----	-----	-----	------	-----	-------	-----	-------	---	-----